

地域に生きる

あと僅かで北中勤務三カ月が終わろうとしています。四月からもう三カ月です。途中、「まだ火曜日か!」「一週間が長いなあ。」と思うことも多々ありましたが、そんな時は「充実している証拠」と前向きに捉えてきました。

その充実していると思える事実として、地域との関わりが挙げられます。「青少年育成町民会議」二回、「夏祭り実行委員会」二回、参加させていただし、学校にも各地区の方が八回来校されています。

土岐・明世・日吉・釜戸・大湫の五地区の会議に出たり、お話をさせて頂いたりして思うことは大きく二点、全ての地区に共通することです。

① 地区への愛着・誇り・願いの強さ

どの地区の方も、自分の住む地区を愛し、誇りに思い、今後の継続・発展を強く願ってみえます。だから、会議も熱くなります。「せっかく行事をやるのなら、昔のようにやりたい。」という意見、「まだコロナは終息していないから、できることを段階的にやっていくべき。」という意見。どちらの意見も地域のこと、地域住民のことを考えた意見で、想いは伝わります。こんな時は、それぞれの立場が納得するための妥協案を探るしかありません。一つの行事を行うためには、現状をしっかりと把握し、最悪の事態を避けるためにどうしたらよいかという対策を第一に考え、内容を一つ一つ吟味していく、といったきめ細かな組み立てが必要なんですよ。

② 中学生への信頼と期待

どの地区も、大人だけで行事を運営していくことは難しい状況があります。そんな時に頼りになるのが中学生の皆さんなんです。幼児や小学生の対応をすることができる、任せられた仕事を誠実に行うことができる、状況の変化にも自分たちで考えた言動をとることができる姿を、先輩たちこれまでのボラunteィアの中でも示してきたからです。

ここ数年、感染症拡大によって、多くの行事が中止となっていました。未だに予断を許さない状況は続き、感染症対策は継続しなくてはいけません。しかし、落ち着いてきている今だからこそ、やれることをやっていきたい、地域で少しでも盛り上がる場がほしい、という強い想いがあります。

それぞれの地域に住む方々の想いや願いに、同じ瑞浪北中校区に生きる一人として、自分のできるところ、自分たちがやれることで応えてほしいと思います。

参加できた人はその感想を教えてください。どんな感想をもったのか、楽しみにしています。